

かわら版すげ

2011年1月
市議会報告
日本共産党
市議員
井口まみ

(発行)
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
<http://www.iguchi-mami.jp>



送迎バスは2つの駅から

2路線新設

区内の強い要望になっていたのが、交通アクセスです。市は「事業者が利用促進のための送迎バスを提案している」といっていましたが、検討状況を質問すると、多摩区長が、「新たな交通手段として、マイクロバスの運行計画をしており、JR南武線と小田急小田原線のそれぞれ1つの駅を経由する、2つのコース案で協議を進めている」と答弁しましたが、まだどの駅から、どこを経由して送迎するかは明らかにされませんでした。

井口市議は、「たくさんの方が利用したいと待っている。オープンしたらすぐ行かれるように、コースを急いで決定し、早く周知をしてほしい」と要望しました。

PTAの強い要望だった

西菅公園側に通路実現

いよいよ三月二十六日に念願の多摩スポーツセンターがオープンします。よりよいスポーツセンターにするため、日本共産党の井口まみ市議は十二月議会で、利用料金、交通安全問題、送迎バスなどの問題をとりあげました。

国保の「無料プール券」の利用も検討

利用料金について、井口市議は「市内ではじめてのプール併設のスポーツセンターであり、これまで利用しなかった高齢者や障がい者も気軽に利用できるよう、利用料金にも工夫をするべき」として、障がい者は障がい者手帳を受付で提示すれば無料になるが、広報されていない。チラシやホームページに明示を。

- ・高齢者割引を行い、高齢者の利用促進策を。
- ・求めました。

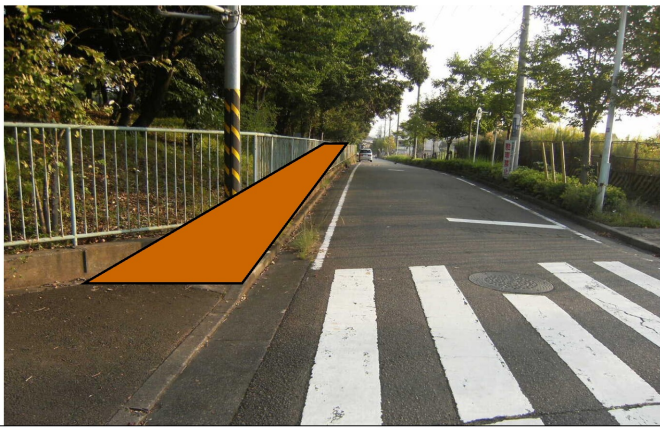
門ノ沢多摩区長は「障がい者の利用料金などは周知に努める」と述べるとともに、「高齢者の優遇制度については、他施設や他都市の状況を参考に検討する」とこたえました。

また、井口市議は「川崎市国民健康保険の加入者（高校生以上七四才まで）は『温水プール無料利用券』で市内すべての温水プールが利用できる。これを多摩スポーツセンターにも適用すべき」と質問。菊池健康福祉局長は「検討する」と

前向きな答弁を行いました。

西菅公園側の通路は道路に沿ってオープンまでに

工事説明会の際、近隣のPTAの皆さんから「通学路に駐車場の出口がつけられ、歩道を車が横切る。反対側の西菅公



左側が西菅公園の野球場。手前が「道路工センター入り口」交差点。右側がスポーツセンター建設地で、完成すると駐車場の出口がここができる。四角が公園内通路設置予定地。

この20年を振り返れば「これは市民が作ったスポーツセンター」

井口市議は質問の中で、このスポーツセンター実現までの道のりを振り返り、次のように要望しました。

「多摩区にスポーツセンターを作ると最初に表明されたのが、一九九〇年でした。それから、なんと二〇年がたちました。

当初からプールをつけてほしいと求め続け、決まりかけた時に市長の行革でDランクにされてプールは白紙。それでも市民はあきらめずに請願を出し、プール付きのスポーツセンターを求め続けてきました。

建設が決まってからも、建設委員会が



12月議会の一般質問をおこなう井口まみ市議

丁寧に開かれ、たくさんの人たちが意見を寄せてきました。

このスポーツセンターは名実ともに市民が作ったセンターだと思えます。この経過はとても大切です。いよいよ運営が始まるわけですが、これからも、しっかりと市民の声を聞いて、市民とともに運営していただきたいと思えます。」

多摩スポーツセンター
いよいよ3月26日
オープン!

障害者手帳提示で料金無料 高齢者割引も「検討する」

12月市議会で、井口市議質問

菅仙谷の一角で 3軒だけ下水がきていない

「来年度に実施設計をおこなう」…上下水道局答弁

多摩区菅仙谷の一角に、たった3軒だけ下水道が接続されていないお宅が残されており、「何とかしてほしい」と相談がありました。上下水道局に対応を求めると、さっそく現地を調査に来ました。

この地域は、下水管が通っている道路から低いところにあるため、接続が難しいからと後回しになったように、住民の方が何度も下水事務所にお願ひに行きましたが、検討もされていなかったようです。

い理由があつてのことと思われま。しかし今回の事例は、詳しく調査してみたら方法が見つかりました。井口市議は「公衆衛生の観点からは、下水道は100%整備すべき。住民に言われてからではなく、局として積極的に困難となつてい地域を調査し、解決を」と求めました。

菅北浦2丁目の浸水被害 4年越しでようやく工事着手

真新しい住宅街が、雨のたびに浸水の恐れに見舞われるという地域があり、何度も市に対応を求めてきました。菅北浦2丁目の、戸建住宅街です。もとは梨畑で、細かい水路が走っているだけで、住宅街としての本格的な雨水対策をしないまま、数戸ずつ住宅が広がっていききました。こういう開発を水路があふれています。

区画整理事業地域を除いても 下水管未整備地域が 多摩区に6ヘクタールも!

井口市議は質問の中で、「区画整理事業以外で多摩区にこうした下水管の未整備地域はどれだけあるのか」とたどしたところ、「さまざま理由で整備が困難でまだ未着手の地域は、多摩区だけで6ヘクタールある」との答弁でした。この中に何軒の家があるのかは調査できていませんが、どこも難し

4年前から対策を求めています。したが、決定的な方策が決まらず、担当者が何人も異動してしまふ始末でした。ようやく今年、真ん中を走っている水路の幅や高さを大きくすることで、流れる水の量を増やせばなんとかなるといふ結論をだし、予算が付いて、この秋か

二〇一〇年十二月議会での日本共産党の質問等は、別紙の「明るい川崎」でご報告しています。「意見、ご感想をお寄せ下さい。」



公道が下りきったところに3軒建っている現場。手前の道路にしか下水管が通っていない。



2007年5月の大雨で冠水した道路。水路があつという間にあふれた。

日本共産党 採択を求め、本会議で意見表明

「命の水を守るために、 生田浄水場の廃止の再検討を求める」請願



賛成の代表討論をおこなう日本共産党のかつまたみつえ議員

十二月十五日、川崎市議会本会議で、「命の水を守るために、生田浄水場の廃止の再検討を求める」請願の採択がありました。これは、十月二十七日の市議会環境委員会で審議を経て、最終的に本会議で賛否を決するものです。委員会では「不採択」という結論でしたが、再度本会議で採択します。

採択に先立ち、日本共産党のかつまたみつえ市議（麻生区）が「生田浄水場は廃止するべきでない」と代表討論を行い、採択に賛成することを表明しました。

水道料金にも跳ね返る全市民的な問題

かつまた議員は討論の中で、市民の飲み水の六七%の水を五六kmも離れた小田原から水を運んでくることは、大規模災害時には無理であること、を明らかにするとともに、自治体が自己水源を廃止し、他の事業者の水に依存することは、料金の決定も独自におこなうことがむずかしくなり、市民全体に影響を及ぼすことを明らかにしました。



本会議場での、請願署名の採択の瞬間。日本共産党のみが賛成で起立。ほかの議員はすべて着席。

神奈川県内広域水道企業団は、水需要を過大に見積もり、莫大な設備投資をしています。その借金がいま各自治体に重くのしかかっているとともに、今後の維持、補修や施設の更新にさらに巨額の費用がかかることがすでに懸念されています。企業団の水に六七%も依存すると、その費用をそのまま料金に転嫁され、市民の負担になる懸念があります。そつした点から、企業団の経営改善を行い、市民負担に転嫁せずに経営を維持しながら、自己水源である多摩区の井戸水とその処理をおこなう生田浄水場は残すべきである、と強く主張しました。

民主、自民、公明、ネット、無所属議員が反対

採択では、日本共産党は全員が起立し賛成しましたが、ほかのすべての議員が反対したため、本会議でも「不採択」になりました。